

神戸製鋼

「コベルコ地域社会貢献基金」により子どもたちの育成を支えています

神戸製鋼は、創立100周年記念事業の一環として2006年に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立し、未来を担う「子どもたち」を対象に、毎年多くの施設や団体の活動を後押ししています。

対象地域は、神戸製鋼の事業所や研究がある9市1町です。それぞれの地域で子育て支援を行う施設・団体や、子ども向け芸術・文化・スポーツ教育活動をする団体、児童養護施設などに対して支援を行います。2010年度の支援先は全部で49件でした(表を参照)。

神戸製鋼ではこれからも、コベルコ地域社会貢献基金により「子どもたち」の支援を末永く続けていきたい考えです。

事業所名	支援先	件数	支援内容
神戸本社(神戸市)	児童養護施設	2	中古ピアノ、遊具など購入費への支援
	障害児施設	1	液晶テレビ購入費への支援
神戸総合技術研究所(神戸市)	青少年育成協議会	1	青少年フェスティバル開催費への支援
神戸製鉄所(神戸市)	保護者会	1	コンサート開催費への支援
	任意団体	1	スポーツ大会開催費への支援
加古川製鉄所(加古川市)	子育てサークル	5	備品の購入ほか活動費への支援
	ボランティア団体	1	備品の購入ほか活動費への支援
高砂製作所(高砂市)	NPO法人	1	イベント運営・活動備品購入への支援
播磨工場(播磨町)	任意団体	1	イベント運営費への支援
藤沢事業所(藤沢市)	子ども会連絡協議会	1	子ども会備品購入費への支援
茨木工場(茨木市)	野外活動センター	1	ビデオプロジェクター購入費への支援
西条工場(東広島市)	保育所	5	幼児用身長計など購入費への支援
真岡製造所(真岡市)	小学校	18	英語教育教材購入費への支援
大安工場(いなべ市)	子育て支援センター	6	テント、遊具など購入費への支援
長府製造所(下関市)	子育て支援センター	1	遊具購入費への支援
	児童館	3	遊具購入費への支援
		49	総額500万円

● 支援事例の紹介(今回から3号にわたって掲載します)

【播磨工場】支援先:はりまデザインラボ

「はりまデザインラボ」は、兵庫県立東はりま特別支援学校にある地域連携交流施設を拠点に、障がいのある人と住民との交流・活動支援や住民同士の交流促進を目的とした活動を行っています。播磨工場は今回、はりまデザインラボが企画した「花でつなぐプロジェクト」を支援しました。

このプロジェクトは、特別支援学校の生徒にビオラやノースポールの花苗を育ててもらい、学生ボランティアや地域の子どもたちと一緒に土づくりやプランター移植を行って、花を播磨町の小中学校や高齢者施設などに配る取り組みです。花苗や土・肥料、プランターなど約200セットを贈りました。1月の植え替えには小学生が約40人参加し、特別支援学校の生徒とともに花を育てる喜びを

感じてもらえたようです。

「花でつなぐプロジェクトで、人と花、人と人が触れ合う場が生まれ、とてもうれしく思っています。私たちは、このような取り組みを通じて特別支援学校を外部にアピールしていきたいです」(はりまデザインラボ担当者)。また、イベントに参加した小学生たちからお礼の手紙をいただきました。



① 植え替えイベントの様子とプランター(上)

【大安工場】支援先:いなべ市子育て支援センター6カ所

大安工場のある三重県いなべ市は、子育てしやすい環境づくりを重要課題に掲げています。生後6か月の子どもがいる家庭に絵本の読み聞かせの大切さを知ってもらう「ブックスタート」、満1歳の子どもがいる家庭をすべて訪問する「満1歳おめでとう訪問」といった独自の取り組みを行っています。

大安工場が支援したのは、そうした取り組みのひとつ「出前(テント)ひろば」。子育て支援センターをより利用しやすくするため、各家庭に近い公民館や公園、自治会集会所などへ「子育て支援の出前」をするものです。出前ひろ

ばで使う遊具やテントの購入費を寄付しました。「より多くの人たちが参加できるようになって感謝しています」と、関係者からコメントがありました。

また、大安工場の担当者が寄付金を持参した様子が地元ケーブルテレビで取り上げられました。



① 自治会の集会所で行われた「出前ひろば」

【神戸本社】支援先:神戸少年の町、夢野子どもホーム、ここにこハウス療育センター

神戸本社では、児童養護施設2カ所と重症心身障害児施設1カ所に支援を行いました。

児童養護施設「神戸少年の町」は、子どもたちがそれぞれの能力や興味を生かして楽しく過ごせるように接しているそうです。今回は、音楽に関心がある子どもたちのためにピアノを贈りました。子どもたちからは、「みんなで大切に長く使わせてもらいます」などのコメントが書かれた寄せ書きをいただきました。

もうひとつの児童養護施設「夢野子どもホーム」は地域貢献や地域交流を重視し、地域の未就園親子を対象に「ゆうゆう広場」を開放しています。今回、そこで使われる遊具を贈り、利用者にも好評とのこと。もちろん、施設の子どもたちもこの遊具で遊ぶことができます。

「ここにこハウス療育センター」は神戸市唯一の重症心身障害児施設。今回贈ったのは液晶テレビで、入所児が遊んだり作業したりするデイルームに設置されました。障害が重くても、音や映像によるテレビの視聴は楽しみやすい娯楽のひとつとして、生活の中で欠かせないものになっているそうです。



① ピアノに合わせて歌う子どもたちのコーラスグループ(神戸少年の町)



① 寄贈した大型遊具などで遊ぶ子どもたち(夢野子どもホーム)



① デイルームに設置された液晶テレビ(ここにこハウス療育センター)

「コベルコ地域社会貢献基金」 2010年度の支援内容を紹介します

神戸製鋼は、創立100周年記念事業の一環として2006年に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。未来を担う「子どもたち」を対象に、毎年多くの施設や団体の活動を支援しています。本誌では、前号から3号にわたって昨年度の支援内容を紹介しています。

【高砂製作所】支援先:高砂キッズ・スペース

高砂市内12の学童保育の管理運営などを行う「高砂キッズ・スペース」は、2008年から「こどものまち『高砂』」という地域イベントを開いています。子どもたちだけの街をつくり、そこで子どもたちは職を探したり、働いたり、給料でほしいものを買ったりする社会体験の場。企画・運営も、市内小学校で募った子どもスタッフにより行います。

高砂製作所が支援したのは、昨年11月に高砂町銀座商店街に場所を借りた「こどものまち『高砂』2010」。前月

に、こども市長が高砂市長に図書館の新設ほかをまとめた要望書を提出するなど開催前から盛り上がり、当日は子どもたち約400人が参加しました。「『地域の子どものために』という神戸製鋼の思いを、とてもありがたく感じています。こうした地域イベントを通じて、子どもたちに高砂への地元愛を感じてもらいたいです」(高砂キッズ・スペース)



① こどものまち「高砂」のメインストリートを歩く子どもたち

【西条工場】支援先:東広島市立保育所5カ所

西条工場は基金が始まった2006年度から、一貫して東広島市の市立保育所へ幼児用デジタル身長計や乳児用身長計を寄贈してきました。2010年度の寄贈先は川上東部保育所と高屋東保育所、暁保育所、豊栄保育所、寺西保育所の5カ所です。これで総計21カ所となり、市立保育所の3分の2以上に寄贈したことになります。

「保育所の備品が充実した」「子どもたちの成長をしっかり記録することができる」といった関係者の声が聞かれ

ます。地元の大学と連携して、統計したデータを子どもの発達の研究に活用しているということもありました。東広島市立保育所すべてに行き渡らせるため、西条工場では身長計の寄贈を続けます。



① 乳児用身長計で子どもの成長を見守る



① 寄贈のお礼にと、子どもたちから首飾りが贈られた

【長府製造所】支援先:子育て支援センター1カ所、 児童館3カ所

長府製造所は、豊北子育て支援センターにアルミワンタッチ日除けテント、ゆたか児童館にボールプール、児童館・ひかり童夢に鉄棒、児童館・ひこまるにピョンピョンマットや紙芝居などを寄贈しました。各施設を訪れる子どもや保護者から、好評を得ています。

豊北子育てセンターは、ほかには小規模の保育園がひとつしかない地域にあります。そのため、周辺地域の子育

て支援の拠点、そして地域交流の場としても重要な役割を担っています。また3カ所の児童館でも、児童と保護者だけでなく地域住民も参加できる行事を行うなど、交流の場としてそれぞれの地域に根ざしています。



① 設置された鉄棒で遊ぶ子どもたち(ひかり童夢)



① ピョンピョンマットでは、代わる代わる子どもたちが遊んでいた(ひこまる)

【神戸総合技術研究所】支援先:神戸市西区青少年 育成協議会

神戸市西区青少年育成協議会は、登下校時に行う「あいさつ運動」など、青少年の健全育成を目的とした活動を行っています。

同協議会ほかが実行委員会を務める「西区青少年フェスティバル」が、毎年3月に行われます。主に小学校中学生から大学生を対象に、ボランティアなどに取り組む青少年を称える「善行青少年表彰式」と、楽器演奏や歌、ダン

スといった催しなどを行う「青少年アトラクション」の2部構成で、アトラクションの企画・運営は青少年が主体となって取り組みます。神戸総合技術研究所が支援した今年3月のフェスティバルには、300人以上の来場者があり、大いに盛り上がりました。



① 善行青少年表彰式(上)と青少年アトラクションの様子



【神戸製鉄所】支援先:住吉小学校合唱部保護者会、 王子プロジェクト

住吉小学校合唱部は2004年創部ながら、2008年度にNHK全国学校音楽コンクール全国大会初出場を果たし、以後毎年出場している実力校です。同部保護者会が主催となり、お世話になった地域住民などへの恩返しにコンサートを開いています。神戸製鉄所は3月の「うはらの風コンサート」を支援しました。「地元企業を含め多くの人の支えがあることを、子どもたちに改めて感じてもらうことができました」(保護者会)

もう一方の支援先・王子プロジェクトは、アメリカンフット

ボールを通じて地域活性化に取り組む団体です。アメフトから派生し小学生でも楽しめるフラッグフットボールの大会も運営しており、このたび神戸製鉄所が支援した「第14回王子フラッグゲームス」には、関係者を含め400人近くが集まり、熱戦が繰り広げられました。「フラッグフットを通じて、地域の子どもたちを活発にしていきたいです」(王子プロジェクト)



① うはらの風コンサートの会場は満席だった



① 王子キッズフラッグゲームスの1コマ

「コベルコ地域社会貢献基金」 2010年度の支援内容を紹介します

神戸製鋼は、創立100周年記念事業の一環として2006年に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。未来を担う「子どもたち」を対象に、毎年多くの施設や団体の活動を支援しています。本誌では、前々号から3号にわたって昨年度の支援内容を紹介しています。

【加古川製鉄所】

支援先:子育てサークル5カ所、ボランティア団体1カ所

加古川製鉄所は、加古川市内の子育てサークル(「エプロンママ」「ままほっぺ」「ぐるんぱ」「なかよしポッポ」「young gardener club」と、加古川製鉄所前水路で自然保全活動を行う「浜手ボランティア30」の活動を支援しました。

子育てサークルのひとつ、young gardener clubは、園芸を通じて親子で自然や食べ物について学ぶという子育てサークルです。開催は月1回。毎回15組程度の親子が参加し、主に東加古川子育てプラザで活動しています。そのため、同施設の周囲はyoung gardener clubの育てた花が色とりどりに咲きます。基金による支援は、土や園芸用品の購入費などにあてられました。また、最近の活動として、子どもたちと一緒に育てたヒマワリの苗を地域イベントで販売し、収益全額を東日本大震災の義援金として寄付したそうです。



① young gardener clubの活動の様子。
この日は2組に分かれて花苗の植えつけとセタの飾りつけを行った



【藤沢事業所】

支援先:藤沢市子ども会連絡協議会

藤沢市子ども会連絡協議会は、子ども会の情報共有や悩み相談、行政とのパイプ役などを行い、市内51の子ども会を支える団体です。

同協議会では、1年間の活動をポスターで紹介する子ども会活動展を毎年度末に開いています。活動展では、日ごろの子ども会の活動内容と、それを表現したポスターのでき映えを評価し、優秀な子ども会の表彰も行います。2010年度は神奈川県子ども会連絡協議会が50周年を迎えたこともあり、例年より大きなサイズで制作され個性豊かな作品が集まりました。藤沢事業所はその副賞賞品を贈りました。

「最優秀賞と特別賞にはデジタルカメラとプリンタのセットをいただくなど、想像以上の賞品に受賞者は大喜びでした。今後の活動の励みになります。『子どもたちのために』というこの基金は、ぜひ今後も続けてほしいと思います」(同協議会)



① 子ども会活動展はJR藤沢駅地下道にポスターを展示(左)。
表彰式には藤沢事業所の松下行伸所長も参加した

【茨木工場】

支援先:茨木市青少年野外活動センター

茨木市青少年野外活動センターは、同市最北部にある約38万㎡の広さ(甲子園10個分に相当)の自然体験施設です。子ども会の1泊2日のキャンプ体験、小学生の自然体験学習、障害のある中学生の2泊3日のキャンプ、家族でのキャンプなど、市内の子どもたちを中心に年間約1万3000人が訪れます。キャンプのアドバイスや手伝いをする、専門職員や大学生によるキャンプカウンセラーがいることも、こちらの特長です。

茨木工場は同センターにビデオプロジェクター一式を寄贈しました。これら機材は、キャンプの雨天時などに屋内学習をする際に利用され、子どもたちの星座や自然観察に対する理解を手助けします。また同センターでは、事前の説明会でもプロジェクターを活用し、現地周辺の自然環境や実際にキャンプをする子どもたちの様子を紹介することによって、初めてキャンプに参加する子どもたちの導入教育に役立っています。



① キャンプの様子と、100人が参加した付き添い者向け説明会



【真岡製造所】

支援先:真岡市内小学校18カ所

真岡製造所は、真岡市内の小学校すべてに英語教育教材(ピクチャーカードや本、CDなど)を贈りました。2011年度から小学5・6年生を対象に英語教育が必修となりましたが、同市では2007年度から小学校での英語教育を進めていました。真岡製造所も同年度から英語教材の寄贈を続けており、今回で4回目となりました。

真岡西小学校6年生の授業は、黒板に貼ったピクチャーカードを見ながら単語を覚えたり、CDに合わせて英語の歌を歌ったりするなど、「話す」「聞く」が中心の内容。先生に当てられても物怖じすることなく、子どもたちは英語で答えていました。同小学校では、早い時期から英語に触れた方がいいと考え、1年生から少しずつ英語授業を導入していますが、どの学年でも楽しそうに取り組んでいるようです。



① 真岡西小学校での英語授業